

令和6年度 えがおプロジェクト リフレッシュ事業
「リフレッシュ サマーキャンプ(中能登地区)～第2クール～」

1 趣旨

- ・令和6年能登半島地震により、被災した児童・生徒に自然に親しみながらの体験活動を提供することで、心穏やかに、心身ともにリフレッシュする機会とする。
- ・楽しかった1学期が終わり、リフレッシュできる長期休業中に児童・生徒が仲間と寝食を共にすることで仲間を思いやり、自己の成長や自分の良さに気付き、今後の生活に自信を持って生活できるようにする。

2 日程

(1) 期 日 令和6年8月23日(金)～25日(日) 2泊3日

(2) 参加者 小学1年生～中学2年生 59名

(3) 活動内容

1日目【8月23日(金)】			2日目【8月24日(土)】		
9:30	玄関ロビ	受付:	6:00	宿舎	起床、清掃
10:00	ー	出合いのつどい・OR	7:00	かんぼ広場	朝のつどい
	講堂	仲間づくり(NOTO ジョイフレンド)	7:20	食堂	朝食
12:00	活動別	昼食	9:00	柴垣海岸	NOTO どきどきタイム
13:30	食堂	NOTO わくわくタイム	12:00		昼食(弁当)
17:00	活動別	夕べのつどい	17:30	かんぼ広場	ゆうべのつどい
18:00	プレイホール	夕食	19:00	食堂	夕食
19:30	ー	へやづくりタイム	20:30	第一営火場	NOTO 焚火タイム
20:00	食堂	入浴&ほっこりタイム	21:00	浴室	入浴
21:30	宿舎 浴室 宿舎	就寝準備・就寝	21:30	宿舎	就寝準備・就寝
3日目【8月25日(日)】					
6:00	宿舎	起床、清掃			
7:00	かんぼ広	朝のつどい			
7:20	場	朝食			
9:00	食堂	宿舎点検			
9:30	宿舎	NOTO チャレンジタイム			
12:00	活動別	昼食			
13:30	食堂	NOTO メモリアルタイム			
15:30	研修室	振り返りタイム			
16:00	講堂	SummerCamp クロージング			
16:30		解散			

3 成果と課題

(1) アンケート結果からの成果(振り返りシートより)

- ① 事業の満足度は、59人中56人が「とても楽しかった」、3名が「楽しかった」という評価であった。事業全体を通して高い評価を得ることができた。
- ② 海での活動では、サップと磯遊びをした。全ての参加者が初めてSUPで、「SUPで立てるようになったり、波に乗ったりするのが楽しかった」「また、SUPをしたい」「SUPを教えてくれたおじちゃんが優しく面白かった」と海の活動を満喫していた。また、磯遊びでは、「海でしましま模様の魚を見れてうれしかった」「海でも楽しい活動ができることが分かった」という感想を述べていた。
- ③ 野外炊事ではカレーバイキングを実施した。「カレーの作り方を知らなかったけど、キャンプで知れたので良かった」「カレーにはヤングコーンとキャベツとかと合うと知った」「みんな協力して取り組むと物事が早く進んだ」という声が多く聞かれた。
- ④ その他では、「リフレッシュサマーキャンプで分かったことは、やっぱり協力が大事だと分かった」「最初は同じ班の子としゃべれなかったけど、しゃべりかけてくれたり、仲良くしてくれたから、みんな協力して楽しめたのでまた行きたい」など、子供たちの仲が深まった活動でもあった。

(2) 事業を通しての成果と課題

- ① ボランティア 13名の参加があり、1班に1~2名ずつの体制を組むことができた。熱中症対策、活動における安全管理など多くのスタッフの目できめ細かく看取ることができた。また、他のリフレッシュキャンプに参加した経験豊富なボランティアも参加しており、児童に対して1人でも上手く接し、班員をまとめることができた。
- ② フードハント（オリエンテーリング）の活動では、前回の反省を生かし、活動場所を縮小し、所内の外周コースのみで行った。野外において気温が高い中での活動となったが、4か所を巡った後に冷房の効いた講堂へ戻り、体を休めてから再度再開するなど、十分な休憩を取りながら活動をした。当日の天候や参加者の体力を十分に把握して、より安全で効果のある活動を考える必要があったと感じる。
- ③ 2日目の海辺の活動（午前・午後）では、午前は波が高く、雨も降る予報であったため、急遽、館内オリエンテーリングに振り替えた。午後は天候が落ち着き、バスに乗って柴垣海岸へ出向いた。磯遊び、SUP体験を1時間交代で実施した。「物足りない」という児童もいたが、低学年の児童にはちょうどよい海辺の活動となった。
- ④ 2泊3日の活動のため、慌ただしい予定となった。他の班の児童と遊ぶ自由時間（バスケットボール、将棋などの自由遊び）を設けることで、子供同士の交流がもっと深まった可能性がある。

